

令和7年度 地域連携推進会議 アンサンブルホーム駒ヶ根 報告

開催：令和7年9月24日

場所：アンサンブル駒ヶ根

参加者：駒ヶ根市職員、民生委員、保護者代表、利用者、アンサンブル駒ヶ根施設長、アンサンブル駒ヶ根管理職2名

1, 活動の紹介とホームの様子

○アンサンブルホーム駒ヶ根は、グループホームが2棟あり（各10名定員）、障害支援区分の平均は1号棟で3.3、2号棟で3.1になる。

○ニーズがあるため、敷地内にグループホームを建設する計画がある。

○利用者の人間関係等を考慮し、引っ越しや移動を適宜行っている。

- ・ホーム職員より：利用者が安心して落ち着いて過ごせるグループホームを目指している。外出時は危険防止のため、いつ、どこへ、誰が出かけるかを記録。以前、利用者が不審な人に声をかけられたことがあったため、知らない人への対応方法を共有している。

- ・利用者より：生活の様子と週末の余暇の過ごし方（外食・ドライブ・カラオケ・映画）を説明。

〈意見交換〉

- ・保護者代表より：週末帰省しない利用者の食事について質問があった。

- 週末でも朝食と夕食は職員が調理。昼食については500円を渡して、お弁当を購入している。

2, 地域との連携について

○駒ヶ根のグループホームは市内の中心部にあり、買い物などで地域資源を活用している。

○地域イベント（マラソン大会等）に積極的に参加している。

○避難訓練も地域との連携を検討している。例えば消火体験。

〈意見交換〉

- ・駒ヶ根市職員より：ボッチャはたれもが楽しめる市民スポーツとして位置づけられており、大会の開催日時は調べれば分かる。興味がある方がいれば参加してもよいのでは。

- ・民生委員より：他のグループホームとの交流はあるのか。他の施設と交流することで、支援に新たな視点を持つことができる。

3、サービスの質の確保について

- ホーム職員は、日中職員と毎朝ミーティングを行い利用者の様子を共有。月1回の全体職員会では利用者の支援内容を検討。昼夜（日中とグループホーム）を通じた支援を行っている。
- 利用者のお金の使い方は、今の生活を楽しむことが重要。
 - ・施設長より：老後の生活のための貯蓄の目安を説明。
 - ・利用者より：趣味（ファンクラブ加入、ライブに行くこと）の紹介。

4、施設見学

〈(見学後の) 意見交換〉

- ・民生委員より：見学時の感想として、「この部屋なら住みたいと思える」「親亡き後も暮らせる」という言葉が心に残っている。
- ・保護者代表より：将来の施設利用、(親亡き後の) 兄弟への負担に不安を感じている。保護者会等を通じて議論を深めていくことが大切だと思う。
- ・駒ヶ根市職員より：65歳からは介護保険の対象になり自己負担が発生する。身寄りのない人への市のガイドラインが整備される予定。行政と連携して進めていくことが重要。